

平成 27 年度 国際関係論専攻 調査研究助成金
調査・研究報告書

受給者：B1566442 伊吹 唯

所属：上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科国際関係論専攻博士前期課程

研究課題：コミュニティ通訳と地域社会－飯田市の事例研究

調査背景

本研究は、「コミュニティ通訳」と地域社会の動きの関係に焦点を当てている。これまでの日本の「コミュニティ通訳」研究では、「コミュニティ通訳」の現状や課題が指摘され、通訳者に必要とされる資質や倫理規範が論じられている。また、地方自治体が主導する「多文化共生」の取り組みの一つとして「コミュニティ通訳」は位置付けられている。しかし、地域社会における「多文化共生」やエスニック・コミュニティの動向などと合わせて「コミュニティ通訳」を論じた研究は、看見したところ見受けられない。そこで、昨年度からフィールドワークを行っている長野県飯田市を事例に、日本の地域社会の動きの中で「コミュニティ通訳」を考察していくという研究に至った。

調査目的

本研究では、先行研究で論じられている「移民の権利保護」や「言葉や文化の架け橋」という文脈で「コミュニティ通訳」を捉える視点に加えて、地域社会やエスニック・コミュニティの動きとの関係からも議論していきたい。申請者が行ってきたこれまでのフィールドワーク調査から、地域の「多文化共生」やエスニック・コミュニティの動向と、「コミュニティ通訳」のあり方や役割などの変化が関係していることが明らかになっている。すなわち、「コミュニティ通訳」を「多文化共生」を目指す取り組みや外国人住民の動向を示すものとして捉えることができる。

今回の調査では、飯田の地域社会とエスニック・コミュニティは、それぞれ、「コミュニティ通訳」にどのように影響し、また、どのように影響されているかを明らかにすることを目的とした。特に、コミュニティ通訳者が設置されるようになった背景やそのころの地域の外国人住民の状況などを中心に調査を行った。

調査方法

本研究では、コミュニティ通訳者へのインタビューを中心としたフィールドワークを行っている。インタビューは日本語で行い、録音したものを書き起こし、それを分析していくという方法をとっている。今回の調査では、コミュニティ通訳者 5 名に対するインタビューを行った。

また、インタビュー以外にも、飯田市における「多文化共生」を目指す取り組み、飯田市の移民の歴史について理解を深めるための資料収集を行った。

調査日程・内容

本調査は、2015年8月1日から7日の日程で行った。今回の調査の主な目的は、飯田市で活動しているコミュニティ通訳者5名（中国語2名、ポルトガル語2名、タガログ語1名）に対するインタビューと、資料収集であった。

インタビューは、1人1時間から2時間ほどである。内容は、「コミュニティ通訳」の仕事をはじめ経緯、モチベーション、仕事内容など「コミュニティ通訳」そのものに関わることに加えて、来日の経緯、家族の話や他のコミュニティ活動についても伺った。これは、こうした多岐にわたる語り全体から「コミュニティ通訳」とエスニック・コミュニティや地域社会の関係を考察することを目的としている。

資料収集は、飯田市役所と飯田市立中央図書館で行った。これは、過去の地方紙や飯田市に関する書籍などから飯田市の概要や歴史、飯田市の移民の歴史を理解することと、外国語に翻訳された、市役所が発行している暮らしのガイドやゴミ出しのルールポスターなどの資料から、飯田市における言語面での外国人住民のサポートについて理解することを目的としたものであった。また、インタビューの一人からも、飯田市の学校における外国にルーツを持つ子供たちの受け入れについての新聞記事を提供していただいた。

調査・研究報告（調査・研究によって何をどこまで明らかにしたか）

今回の調査の結果、現場における「コミュニティ通訳」の始まりや発展の経緯が明らかになった。飯田市では、当初は、当事者たちによって自発的にボランティアで行われていた「コミュニティ通訳」のようなものが、市によって派遣されるようになり、現在では、継続的に派遣が行われるようになっている。例えば、中国語の通訳は、中国帰国者の増加によって、早期に帰国した人や日本語ができる帰国者が中心となってボランティアで行われていた。10年以上経った後に、市によって派遣されたり、病院に雇われたりするようになり、現在では、国際結婚などで移住してくる中国人も支援対象に含めた取り組みとなっている。ポルトガル語の学校通訳者は、ブラジル人は出稼ぎで定住はしないため、学校通訳の需要がなくなるかもしれないと言われていたが、結局、現在に至るまで通訳者として働き続けている。このように、外国にルーツを持つ住民が増加することで、自発的に「コミュニティ通訳」のような取り組みが始まり、また、彼らが定住することで、その取り組みが地域社会による派遣・雇用となり、多少の賃金が発生する形で制度化されていく過程を見ることができた。

今後は、今回の調査で得られた知見を活かし、飯田市においてどのように「コミュニティ通訳」が発展してきたかの経緯を、エスニック・コミュニティの動きだけではなく、地域社会の動き、日本における「多文化共生」の動きと合わせて、より詳細に検討していきたい。